

課題名	24 落葉果樹の整枝せん定	分類	①
	ナシの優良側枝確保のための予備枝の取扱方法		
試験研究年次	63～2年(完了)		
I 目的			
予備枝を用いて優良側枝を確保する方法を明らかにし、高品質果実の安定生産技術確立に資する。			
II 試験方法			
1 試験場所	場内	露地	
2 供試樹	幸水		
3 試験区			
(1) 予備枝の太さ	7～10mm、10～13mm		
(2) 誘引時期	6月下旬、7月中旬		
(3) 誘引方法	(第2表)		
4 処理方法	63年度(10年生)の冬期せん定時に1年生の発育枝を基部から3～4芽で切り返して予備枝とし、翌年度の春期発芽後に最も強い新梢を1本残して他は芽かきし、垂直に近い予備枝は新梢誘引時(第1表参照)に基部に $1/2$ 程度切り込みを入れ、基部径の $3/4$ 程度を折損させて棚面に誘引した。横向きの予備枝は切り込みを入れなくてそのまま新梢を誘引した。		
III 主要成果の概要			
幸水で優良な側枝を得るには、基部径7～13mmの1年枝をせん定時に基部から3～4芽で切り返して予備枝とし、発芽期に最も強い新梢を1本残して7月中旬に予備枝部分に切り込みを入れ、予備枝部分が $3/4$ 程度折損するほどに強く誘引するのが良い。			
1 誘引時期は、幸水では6月末より7月10日前後が適切であり、花芽着生率が高くなる。			
2 予備枝の基部径が7～13mmの範囲では径の差は花芽着生率に影響しない。			
3 新梢誘引時に予備枝または新梢に傷付けなくて誘引した場合は、新梢の栄養生長の抑制ができないために着花芽率が低い。予備枝の基部に切り込みを入れて $3/4$ 程度折損するほど強く誘引した枝は、着花芽率が高く、優良な側枝となる。			

IV 主要成果の具体的データ

第1表 幸水の誘引時期及び予備枝の太さ別花芽着生率

誘引時期	予備枝の太さ	調査枝数	予備枝径	切返し程度	新梢			着花芽率
					基部径	長さ	節数	
6月30日	7~10mm	10本	8.3mm	3芽	11.7mm	133cm	28節	39.6%
	10~13mm	4	10.3	4	11.4	135	27	38.5
7月10日	7~10mm	4	9.7	4	12.3	138	28	70.0
	10~13mm	5	10.5	4	13.3	149	31	74.8

第2表 幸水の誘引(7月10日)の違いと着花芽率

誘引方法	予備枝基部径	切返し程度	新梢の基部径	新梢		着花芽率
				長さ	節数	
予備枝切込み3/4折損	9.7mm	4芽	12.3mm	138cm	28節	70.0%
予備枝切込みなし、新梢3/4折損	8.7	3	11.4	123	24	53.6
予備枝切込みなし、新梢折損なし	8.8	4	10.7	122	24	51.5

V 成果の評価と取扱上の留意点

- 1 花芽の着生しにくい園で、側枝更新のための予備枝の確保技術として利活用できる。
- 2 切込みを入れて誘引する場合、枝の全折損が生じやすいので丁寧に誘引する。
- 3 高い生産力を維持するためには、毎年全側枝数の30%を予備枝として準備し、側枝を3~4年で更新することが重要である。

VI 今後の研究上の問題点

VII. 資料名

63年度、2年度福岡県農業総合試験場果樹関係試験成績書